

かぶ

1 作型

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	春まき											
	夏まき(高冷地向き)											
	秋まき											

○ : 播種

■ : 収穫期



○ : トネル設置



■ : トネル除去

アピールポイント

- ・品種選定や作型、標高の組み合わせで、ほぼ周年をとおして栽培・出荷が可能です。
- ・秋まきの作型は、農薬を減らした栽培を行っています。
- ・上野原市の秋山地区では、地域で生産した長かぶを加工し、特産品「ひなづる漬」として販売が行われています。



2 各作型のポイント

(1) 春まき栽培

生育初期の低温でとう立ちしやすいため、晩抽性の品種を用います。

発芽適温は15～20度なので、2～3月に播種する作型では、播種前にトンネルを設置するなどして、地温を確保します。

トンネル栽培の場合、トンネル内温度が30℃以上にならないよう換気を行い、晩霜の恐れがなくなったらトンネルを除去します。

(2) 夏まき栽培

高温期は根の肥大が悪くなるため、耐暑性のある品種を用います。

高温期は、条間や株間を広くとって栽培します。

コナガやヨトウムシ、キスジノミハムシ等の害虫が発生するため、防虫ネットや不織布などをトンネル状に被覆し、侵入を防ぐことも必要です。



長かぶ

(3) 秋まき栽培

小かぶ～中・大かぶまで、ほぼ全ての品種が栽培できます。

収穫までの目安は早生品種で30～40日、中型品種で60～70日、大型品種で100日程度です。

秋雨や台風の季節と重なることから、やや高畝にします。

長期間収穫を可能にするため、播種は数回に分けて行います。

10月以降に播種する場合、低温により発芽が悪くなったり、霜の影響で品質が低下しやすいため、トンネルで被覆して栽培を行います。

(4) 各作型共通

幅10cm、深さ1cm程度ですじまきし、播種後は軽く覆土します。マルチ使用時は1穴に5～6粒播種し、間引きします。

間引きは、1回目は発芽がそろい子葉が展開した時に行います。それ以降は、本葉2～5枚時に1～2回行い、すじまきでは株間が5cm間隔になるようにします。

かぶは、高温乾燥条件で育てると、縦長で尖った形になりがちです。また、かぶの肥大期に、乾燥や降雨などで土壌水分が変化すると、割れやすくなるため、適度な湿度管理に努めます。